

人文学部 前期日程 平成 31 年度入学試験「総合問題」

解答および出題意図

I

問 1 (解答例)

感情や個人的な信条への訴えが客観的な事実よりも輿論の形成に影響をもつ状態に置かれている、という意味の形容詞 (53 字)

問 2 (解答例)

2016 年に行われたブレグジットをめぐるイギリスにおける国民投票やアメリカ大統領選を背景に、使用頻度が急上昇したため。(59 字)

問 3 (解答例)

“post-”という接頭辞は、もともと、単にある状況や出来事の「後の時代 (の)」という意味しかなかったが、「ある特定の概念が重要でなくなった時代に属する」という、もともとの意味とは異なる意味も含むようになったということ。(110 字)

問 4 (解答例)

嘘つきは、彼の聴衆の利益と快樂に合わせて、または、彼らの単なる期待に合わせるためにでさえ、彼の「事実」を自由に作り上げるので、おそらく彼のほうが真実を語る者よりも説得力を持つだろう。

問 5 (解答例)

真実と政治はもともと相性が悪く、真実を語ることは政治にとって美点とは考えられていない、ということ。メディアのファクトチェックにより事実と反することを多く語ったとされるトランプがアメリカの大統領になったことがこのことの例として挙げられる。(118 字)

II

問 1 (解答例)

小説家は作品の中で感覚的表現を駆使し、情景や心情の描写の解釈を読み手に委ねさせる。しかし同一の解釈しかできない言葉で表現されると、自由で多様な解釈や想像が許されず、小説の面白さがなくなってしまうため。(100 字)

問 2 (解答例)

メッセージに感覚的な表現があると、受け手はそれを送り手と異なる物差しで主観的に理解する。また言葉に伴う語感、共有の辞書的意味が作るメッセージ内容には含まれていない意味を、受け手により異なる形で読み取らせる。さらに、受け手は自身が持つ外延の範囲に基づき、送り

手の意図と異なる事がらを想定しうる。以上のような曖昧さや多義性が表現手段としての自然言語の限界となり、コミュニケーションでの誤解を発生させる。(200字)

Ⅲ

問1 (解答)

- (A) 30.4%
- (B) 19.6%

問2 (解答例)

調査を実施した2006年と2016年の線はいずれも右下がりであり、年齢層が高いほどテレビ観戦したいという傾向が一貫して見られる。また、2016年の線の傾きは2006年の線に比べて急であり、その傾向が顕著である。さらに、2016年の線は2006年の線の上側にあり、2006年から2016年までの10年間の加齢によって、どの生年グループも観戦したい割合が上昇し、現在から遠い生年グループほど2016年の線と2006年の線が離れているため、加齢の影響が大きいことがわかる。(212字)

Ⅳ (出題意図)

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの文章を読み解き、読み解いた文章の内容を素材の一部に用いながら、問に対し論理的で首尾一貫した論述内容を構想し、それを適切に表現する力を測る。また、以下の3つの観点から評定を行う。

- (1) 各出題の内容と条件を正しく理解し踏まえている (理解力)
- (2) 論理的な文章構成・表現力がある (構想・表現力)
- (3) 教養や知識に基づく批判的思考力による検討ができている (批判的思考力)